

## 2019-2020年度 国際ロータリー第2780地区 地区大会 新世代交流会 生徒会参加活動 報告書

日 時：2019年10月20日(土) 9:30~14:35

場 所：小田急ホテルセンチュリー相模大野(新世代交流会) 相模女子大学グリーンホール(地区大会)

参加者：3年 望月 川原 佐藤 2年 三浦 山本 石田 1年 野村 橋本 松本 藤本 谷口 長田 山口 齋藤 川崎 堀 川野 吉原

報告者：生徒会1年 谷口勇人 藤本真輝

補筆 武田 校正 荒川 伊藤



### ◆ 活動の理由と目的

- ①. 活動を通して、地区のロータリアンや関係する様々な方たちの交流する
- ②. 日頃の活動の様子を 交流を通して多くの方たちに知ってもらう
- ③. 交流会を通じ積極的に発言し他者の意見を尊重しつつ自身の意見をまとめることに努める

### ◆ 当日の内容

午前中は小田急ホテルセンチュリー相模大野の8階で新世代交流会に参加しました。この交流会では国際ロータリークラブに関わりのある団体から人が集まり、20くらいのグループに5~6人ずつわかれ、アイスブレイクを兼ねた自己紹介をしてから、ワークショップに入りました。このワークショップでは国連の難民高等弁務官事務所に勤める女性がファシリテーターを務めていました。まず、各グループのディスカッションでは、なくなったら困るものを各自でピックアップしていきました。そして、もし本当になくなったらということを想定していき、命以外の自分の所有するものや、思い出や、心までも、ぎりぎりまで捨てていく作業をしていきました。そし

て、その作業の後、大切な物を本当に失った例として難民および難民キャンプについてのビデオを見ました。難民になった場合、自国にいても他国にいても厳しい状態は変わらないことがわかりました。それこそ自分の命以外すべて捨てることで難民生活が始まることをワークショップで気づかされました。私は、世界が平和になり、戦争がなくなるのが一番良いと思いました。



昼食をはさみ、午後から相模女子大学グリーンホールに移動してそこで地区大会に参加しました。地区大会ではロータリーの中で新世代グループに位置するインターアクトクラブメンバーとして、ステージ上で紹介されました。紹介のあと、私たちは会場の外にでて、記念写真をとって解散しました。

### ◆ まとめと感想

新世代交流会のワークショップは無くなったら困るものについて考えたことがなかったので、良い経験になりました。自分の今の生活から、物やお金だけでなく、家族や友達も失うのです。難民の方の話から、自分を証明する一切の記録も失われることになるのも知りました。ある難民の方は、一枚の卒業証書を肌身離さず持っていたために、彼の存在証明となり、そうしたものを何も持たない人は、誰もその人の学歴や生活歴を証明できないために難民となった時に相手にされないとのことでした。

難民生活は、思い出や、その人のアイデンティティを維持してくれるような写真などの品々も失ってしまうため、その人の心にも作用し、文字通り、心もボロボロになるみたいです。今の世界の現状では難民が徐々に増えていっているようです。普通と思われる生活するのが困難な状況が難民の生活です。現状を知ることができて勉強になりました。この現状を多くの人に知ってもらえるように私たち自身がまず知ることで、学ぶことが大事だと思いました。

また、地区大会では大きな会場のステージに上がってあいさつをしたので、大変緊張しました。第2780地区の大会ということで、年に一度、ロータリーに関わるすべての組織があつまるセレモニーです。たくさんの方たちの中での立ち居振る舞いについて、気を付けていこうと思いました。

### 記：生徒会1年 谷口勇人

新世代交流会では、留学生の方がいて、ディスカッションにうまく参加できるか分からず、不安でした。しかし参加された同じグループの皆さんが、大変優しく、私たちに接してくれたので、しっかり話し合うことができ、楽しく学ぶことが出来たと思います。特に難民のことは、それまで考えたこともなかったので、自分の命以外、すべてのものを失うということがどういうことなのか、喪失感を疑似体験することができ、良い経験になりました。逆に今の自分は、これだけのものを持っているというこ

とも知ることができました。

こうしたワークショップには、これからも参加していきたいと思っています。

### 記：生徒会1年 藤本真輝

